

THE GREATER MANCHESTER CLUB NEWS No.2

「ニューズレター」の第2号に寄せて

会長 松本 洋

4年振りに「ニュース」が発行されることになり大変喜ばしい限りである。

グレーター・マンチェスター・クラブは英国北西部大学関係者の極めてルースな日本同総会であるとはいえ、会員相互の親睦と連帯を図るために時々会報が発行されることは必要である。

マンチェスター大学と UMIST の同窓生のマンチェスター・クラブとマンチェスター・ビジネス・スクールの卒業生の集まりが以前は別々に開催されていたが、1995年秋にマンチェスター大学の B.ロブソン副学長が当時の日本研究所長の N.キャンベル博士と共に来日されたのを機会の一つにまとまることになって、グレーター・マンチェスター・クラブが生まれた。

今まで東京、山形、岐阜、神戸と年に一回同総会の集いを開催してきて、この11月に久しぶりに東京で開催される。

それに昨年の神戸大学での総会に際しては、前日本研究所所長の G.ブロード博士の発想で HEST・フォーラム (Higher Education, Science and Technology Forum/科学技術高等教育会議) が開催され、マンチェスター大学、UMIST、マンチェスター・ビジネス・スクール、マンチェスター・メトロポリタン大学や博士自身の出身校のサルフォード大学はもとより、リバプール大学、リバプール・ジョン・ムーアズ大学、ランカスター大学、ノースアンブリア大学の関係者も迎えて、文字通り包括的に、北西イングランドの大学群に関わりをもつ人々を仲間に入れたのであった。これで会員層も北海道から鹿児

島まで広がったわけである。今回から会則を作り会員制を導入、ルースな集まりでが会員一人一人に連帯感と自己責任の自覚をもってもらうと考える次第であり、そんな折のニューズレター発行はまことに時宜を得たものであるといえよう。これからも定期的な発行に期待したい。

日本研究所開所式に出席して

会長 松本 洋

去る6月23日(水)、マンチェスター大学ウオータールー・プレイス日本研究所の移転開所パーティに招かれて、戸田豊さんと日本から参加した。

オックスフォード・ロードの大学敷地北端に位置するテラスハウスのコーナー部分の新研究所は、前所長の G.ブロード博士が精魂傾けて廃屋から見違えるように改装したプロジェクトである。

当日は、3年余の博士の奮闘が実を結んで、マンチェスター大学 M.ハリス学長、日本研究所会長 D.ウインターボーン教授、英国北西部開発機構総裁トーマス卿、日本大使館の四宮公使、このプロジェクトに貢献した北西部進出の日本企業代表者たちが三階建て縦長のイギリス風長屋を一杯にして、賑やかな新研究所開きとなった。

貧者の一灯を献じたわがグレーター・マンチェスター・クラブ・ジャパンへの感謝のブラックも階段脇にかかっていたし、1994年に B.ロブソン副学長来日の機に N.キャンベル元館長に贈呈した絵の看板も入口横にあって、新しい革袋の中での新しいワイン(活動)を約束しているようで気分が良かった。



開所式のスナップ
前列左端が
マーチンハリス学長



新研究所の外観



新研究所入口横の看板とJ. パント所長代行

第一回科学技術高等教育(HEST)会議

神戸大学 福田秀樹

英国北西部地域の科学技術高等教育会議 (HEST) と日本の大学、企業関係者が、日英両国の産学連携の在り方について討議する初の HEST フォーラムが平成 10 年 10 月 24 日 (1998 年、神戸大学瀧川記念学術交流会館で開かれました。マンチェスター大学など英国北西部での留学経験者でつくるグレーター・マンチェスター・クラブ (会長; 松本洋 (財) 国際文化会館専務理事) が主催で、英国側からはマンチェスター大学、ランカスター大学、リバプール・ジョンムールズ大学、マンチェスター・メトロポリタン大学、ノースアンブリア大学、サルフォード大学、リバプール大学、マンチェスター工科大学の 8 大学から 17 名、日本側から神戸大学を

始め大学関係者および企業関係者約 100 名の参加者がありました。

当日は、有馬朗人文部大臣の歓迎メッセージに続き、神戸大学大学院自然科学研究科長佐々木武教授および同大学工学部長北村新三教授の歓迎の辞より始まりました。

フォーラムでは、マンチェスター大学学長のマーチン・ハリス教授が英国北西部の大学と日本との新たな協同研究の在り方を模索する方法として 4 つの貴重な提言をなされました。神戸大学副学長の片岡邦夫教授は、日本の科学技術政策の内容に関し、「日本の大学は 21 世紀に向けて、基礎科学の研究にもっと力を入れるべきで、そのために大学間の国際的な協同研究を促進していかなければならない」と指摘されました。





岩倉具忠氏

サルフォード大学のジェームズ・パウエル教授は、学生と企業がテーマを設けて協同研究する制度や、複数の大学が協力して産学連携に取り組むなど、英国での現状を紹介された。また、シャープ（株）の片岡照栄博士は、英国大学との協同研究の成功例を紹介され、基礎研究の重要性や研究環境の条件など意見を述べられました。最後の総括として、ランカスター大学経営学部長のステファン・ワトソン教授は、今後日本の大学や企業、特に関西地域との深い交流が非常に重要であると述べられました。

この後 1872 年にマンチェスター視察の政府使節団を率いた岩倉具視の子孫に当たる岩倉具忠・翔子ご夫妻（京都大学名誉教授）らをお招きし、レセプションが開かれました。岩倉先生は、当時の使節団に係わるお話をエピソードも交えて詳しくご紹介下さいました。



松本会長と Dr.D.E. Winterbone

なお、本フォーラムは産学連携策を模索する第一回の日英フォーラムとして注目され、複数の新聞でとりあげられたことも反響の大きさを示しているものと思います。

編集後記

通常なら会員の皆様にお声をかけて、皆様の近況などを取り入れて、皆様の会誌として発行すべきですが、会則（案）の作成に大変な時間かとられたため、皆様にお声をかける余裕もなくそれでも会則（案）の送付と同時にクラブの活動内容を送ろうということになって急遽、HEST 会議とマンチェスターの日本研究所の開所式だけの内容となりました。ご了解のほどよろしくお願いいたします。次回の例会はご案内の通り 11 月 20 日（土曜日）11：00～15：00 の予定で国際文化会館で行われます。多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【文責：平沢洋治（日本ペイント株式会社）】